

楽しみを
見つけること
が大切



元サッカー日本代表の城彰二さんによるトークショーが1月31日、わかさ・プラザで開催されました。関市出身のクリエイティブディレクター栗山圭介さんが司会を務め、城さんのサッカーへの思いや、スペインへ移籍

した時の苦労話などを紹介。今もサッカーが楽しみで大好きな城さんは「皆さんも何か楽しみを見つけ、それに向かって何をすべきか考えましょう。目標を設定すれば一生懸命取り組みます」と会場に語りかけていました。

あんな事、こんな事



寒風吹く刀都を駆ける

1月17日、第28回関市駅伝競走大会が開催され、7部門123チームが参加しました。前の週に降った雪がまだ残り、冷たい風が吹いていましたが、選手たちは中池公園の陸上競技場下を元気よくスタートし、1チーム6人が一丸となって1本のたすきをつなぎ、新春の市内を駆け抜けました。ヤマリンとミナモも中池に駆けつけ、走る選手たちを応援していました。

家族を守るために

前山町で1月24日、東海・東南海地震を想定した避難（炊き出し）訓練が行われ、住民約200人が参加しました。公民センターに避難してきた住民は班ごとに点呼を取って安否を確認しました。訓練では、アルファ米と豚汁の炊き出しも行ったほか、関消防署員から火災時の通報の仕方や住宅用火災警報器の設置、消火器の扱い方について説明を受け、実際に水消火器を使って初期消火訓練も行いました。





性別、障がい、年齢、人種を越えて

男女共同参画社会の実現に向けて「第10回男女共同参画市民フォーラム」が1月24日に開催されました。作家で東京家政大学人間文化研究所特任教授の落合恵子さんの講演を市民ら約350人が聴講しました。落合さんは母親の介護を通して、身近な生活の中にこそ男女共同参画があると知り、「男女共同参画は人種を含めたすべての人権問題であり、さまざまな意見が尊重される世の中にしたい」と語りました。

韓国の味をご家庭で

関市国際交流協会ボランティア委員会主催の「世界の料理交流会」が1月17日、わかさ・プラザで行われました。「各務原キムチ」の誕生に関わった趙芳子さんの指導で参加者はキムチ作りに挑戦。塩で水抜きした白菜に、とうがらしやにんにくなど数種類の材料でできたペーストを手際よく塗りつけてキムチが完成しました。出来上がったキムチは各自持ち帰り、数日熟成させてからおいしくいただきました。



川をきれいに おす 押忍!

日本空手協会岐阜支部が1月24日、恒例の寒稽古に合わせて、武芸川町の武儀川河畔・宝見橋付近でボランティア清掃活動を行い、子どもたちはゴミ袋を片手に約1時間かけてゴミや枯れ草などを拾い集めました。清掃活動の後、寒稽古が始まり、子どもたちは元気な掛け声とともに川に入って稽古をしました。同支部では毎年夏に河川清掃を行っており、今回初めて冬の時期に行いました。

安全・安心な食材に感謝

安桜小学校で1月29日、自分にあった量を考えておかずを選べるプチセレクト給食が行われ、同校6年生と保護者、学校給食センター職員ら130人が参加しました。また、この日は全国学校給食週間に合わせ、同センターに県産の食材を使った食品を納品している業者の方を招待し、児童らと一緒に給食を食べていただきました。



こぼれ話



前山町で行われた避難(炊き出し)訓練に行ってきました。初めての訓練で1月という寒い時期のうえ、昨年からの新型インフルエンザなどが懸念されましたが、約200人も住民が参加しました。そういえば15年前の阪神・淡路大震災も1月に発生しており、地震は時を選ばないことから、寒い時期の訓練も意義あるものだと思います。

炊き出しで使われた「アルファ米(五目ご飯)」と配布

された「缶入り乾パン」は、市の食糧備蓄配備計画による補給に合わせて、賞味期限が近づいているものを、市に申請して無償で譲り受けて利用したそうです。また、冷えた体を温めてもらおうと豚汁も振る舞われました。

自治会長の池戸好行さんが訓練のあいさつで「自分の身は自分で守り、そして家族を守りましょう」と話していました。前山町は15班約200世帯あり、新興住宅団地ですが、このような訓練を重ねることで、お互い協力し助け合って災害を乗り切る力が備わっていくことでしょう。